

## 事例2 外部人材を導入し多様な教育支援活動を展開 【都立王子第二特別支援学校】

### ◇都立王子第二特別支援学校（加藤仁子校長 北区十条台）

文京区、北区、一部地域を除く豊島区・荒川区の知的障害の児童・生徒約180人が通学しています。小学部と中学部が設置されています。

都立王子第二特別支援学校では、保護者、近隣の体育大学、NPO法人、地域サークル等で構成される「たんぼぼくらぶ 王二有志の会」という支援団体ができました。会は50名の個人会員と5つの団体で構成され、放課後を中心に様々な活動支援が行われています。

例えば、中学部の部活指導においては、球技クラブで体育大学の学生さんによるサッカーの指導、造形クラブでは臨床心理士の資格を持つ指導者による指導、音楽クラブで地域の音楽サークルによる合同活動、などが行われています。こうした多彩な活動は支援団体に参画している幅広い支援者に支えられています。

放課後活動の他に、ビルメンテナンス会社の専門指導員の方を外部指導者として招いて実施している清掃指導の取り組みがあります。

清掃指導は、これまで、特別支援学校の高等部で取り



音楽教室の様子

組まれてきましたが、王子第二特別支援学校では、この事業を活用して小学部と中学部の児童・生徒を対象に実

施しています。指導は10人の生徒が二つのグループに分かれて、それぞれに作業服を身につけた指導員の方がついて行われます。「ほうき」の使い方や、雑巾の絞り方、机の拭き方などについて基本動作から指導を受けます。

懇切丁寧な指導と外部の方との接触によって得られる適度な緊張感が大きな効果を生んでおり、高等部での本格的な職業教育への準備にもなっています。同時に外部の方との接触が社会生活に必要なコミュニケーション力や礼儀作法などを習得する機会にもなっているそうです。



球技クラブの様子

## 外部の教育資源を活用して特別支援学校を支援するしくみをつくる

ご紹介した二つの事例は、東京都教育委員会のモデル事業「外部の教育資源を活用した特別支援学校を支援するしくみづくり事業」として実施されています。

この事業は都立特別支援学校の児童・生徒の学校教育活動や、学校を利用した放課後や土日等の余暇活動等において、地域の人々や大学、企業などの外部の幅広い人々による多様な支援を行う事業です。

具体的には学校ごとに設置された支援団体が学校と連絡調整をはかりながら、障害の種別や程度に応じた支援活動を実施します。

平成20年度はモデル事業として5校で実施し、その成果を検証しながら、地域や社会が特別支援学校を支えていく「しくみ」のあり方を検討し、広く普及させていくことを目指しています。

